アカデミックデイ2014「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展リスト

出展番号	出展代表者	所属	出展タイトル	概要	研究者の一言
48	和田敬仁	京都大学大学院医学研究科	いのちのバトン―体験型ヒト遺伝教室―	私たちは「いでん」といういのちのリレーで、祖先から子孫にバトンを受け継ぎます。バトンの色はたった4種類の色の組み合わせでも，多様な個性を作り出します。小中学生、親子も大歓迎！一緒にヒトの遺伝を考えましょう！	DNAや染色体を見ながら、ヒト遺伝を考えよう！
49	西村周浩	京都大学白眉センター	日本でヨーロッパについて語る？	かつてヨーロッパの大言語であったラテン語。その語彙の歴史に関する研究を糸口に、ヨーロッパからはるか遠くはなれた日本において、ヨーロッパ研究全般が今後どのように存続しえるのか、一緒に考えてみませんか？	まずは言葉の奥底をちょっとのぞいてみませんか？
50	村瀬　雅俊	京都大学基礎物理学研究所	統合知―新たな学問の創成に向けて―	現代は、政治・経済・医療・教育・高齢化社会等において、ますます混沌とした時代になっており、私たちはさまざまな危機に直面している。このような時代にこそ、今日の危機を未来への好機と捉え直す、新たな学問の創成が望まれる。アルバート・アインシュタインは、「さまざまな問題を生み出してきた時代においては、その時代精神の常識的な考え方自体を抜本的に改める必要がある」と説いている。従来までの、客観主義科学の現状と課題を踏まえながら、新たな「ものの見方」に基づく、文理融合的な学問の創造を目指す。これが、京都大学統合創造学創成プロジェクトの目的である。	「学びを学ぶ」ことこそ、社会を創造的に生きる鍵。
51	寺村謙太郎	京都大学大学院工学研究科	CO2を“ひかり”と“みず”でリサイクル！？	石炭・石油・天然ガスなどの化石燃料を燃やすと最終的には二酸化炭素（CO2）と水（H2O）になります．このCO2とH2Oを光触媒を使って人類に有用な資源にする研究をしています．	CO2を私たちの生活に必要な資源に変える研究です
52	ネイサン・バデノック	京都大学白眉センター／東南アジア研究所	言語から考える世界	言語が100以上あるラオスで、常にいくつもの言語を操りながら生活する人々がつくる多言語社会を調べています。言語の多様性に関する研究を通して、言語は人間社会にとってどういう価値をもつか、問い続けています。	コトバを知れば世界を知る―タジキスタンのことわざ
53	井上元	京都大学大学院工学研究科	未来の″クルマ″とその″社会″	未来の″クルマ″を想像できますか？その時はどんな社会でしょう？現在、自動車は国内エネルギー消費の20%を占め、次世代自動車が注目されています。その鍵となる二次電池、燃料電池に関する私たちの研究を紹介し、また未来の社会でのあるべき姿について考えてみましょう。	計算機を使った電池の研究をしています。
54	平岡　真寛／原田 浩（副）	京都大学大学院医学研究科／京都大学医学部附属病院	分子画像と 四次元放射線治療の融合	京都大学の医学分野の2つの最新研究成果（分子イメージングによるがんの個別特性把握と、体内で動くがんを追尾しながら照射を行う放射線治療）の融合による新しい放射線治療を分かりやすく紹介致します。	体の中で動くがんを狙い撃ちします！